

いのち  
生命の水 うるおす未来

# アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2021年秋

147



特集

新型コロナ禍の中で⑥



# JAFS

since 1979  
公益社団法人アジア協会アジア友の会  
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



## ● 主な目次 ●

### 「巻頭言」アジアの人々の心を知る大学に 02 特集＝新型コロナ禍の中で⑥

一つ屋根に家族17人、集団感染恐れる日々 ／仕事失った家庭に支援金、スマホない子 に補習授業／伝統のハーブ使ってピンチの 医療助ける	04～06
命の支援、続々と現地へ	07
レクタラさんとトゥゴンさんを悼む	08・09
井戸掘り＝私のへき地医療の原点	10・11
もっと良い医療を！インドの村々へ	12・13
10カ国参加しアジア・ユースサミット	13
道路の遅れから地域格差－ネパール報告	14
「活躍するアジア人」	15
「井戸ができた村」	16・17
「JAFSプラザ」＝国内の活動	18・19
甲山の緑と眺望を満喫／地震観測の歴史と 鎌足の墓？を見学／ユダヤ人難民との交流 の跡巡る／新会員とみんな手を合わせれば	
新入会員紹介・領収報告	20・21
「新・the 社会貢献」	22
「環境コラム」	23

## アジア協会アジア友の会とは

アジアに井戸を贈ることから地域の自立を目指す国際協働団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2021年3月現在、井戸建設（累計2150基）や植林（累計257万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、アジア18カ国（インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン）、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、70の現地提携団体を通じ、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティプログラム、自然環境プログラムや、人材育成、留学生交流など行っています。

### 本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

## 巻頭言

JAFSアジア市民大学はアジア協会アジア友の会（JAFS）創設40周年を記念して2018年12月に開学し、翌年1月から第1期（全12回）の講座がスタートした。毎月1回、大阪市西区の肥後橋官報ビル8階会議室で開催されており、本年9月から第3期に入る。

大学設立の背景には、「なくそう貧困。命の水を」を標語（当時）に掲げたNGO・JAFSの魂がこもっている。「知は力」。JAFSの活動を発展させるには、「アジアについて学び・アジアの人々の心を知る」ことが何より物を言う。永年のJAFSの活動を通しての経験である。

### アジアの人々の心を知る大学に



#### 實 清隆

アジア協会アジア友の会 理事

の討論が展開されている。毎回、多くの受講生から発言が相次ぎ、質問・討論の時間が、なお足りない感じさえ残っている。思いがけないやり取りもあり、担当教授からも「この討論から教えられることが多い」と感謝の言葉をいただくことが多い。今後とも、この「ひと味違った」講座を続けて行きたい。

現在のアジア情勢は、世界を揺るがしている。まさに「激動するアジア」である。19世紀の産業革命以

「奇跡」と称されるほど高い経済成長となり、インドもIT産業を軸に成長が著しい。

しかし、その陰に、依然として成長から取り残されている国・地域が少なからず存在し、貧困問題は残っている。さらに、少子・高齢化、熱帯雨林の乱伐、海洋汚染など環境問題も深刻化の兆しを見せている。

また、現在、中国の南シナ海の軍事プレゼンス、ミャンマーの軍事クーデター、アフガニスタンの政権崩壊などの問題も出てきた。

何より、一昨年末以来の新型コロナウイルスの猛威・爆発的パンデミックの克服という大きな課題が突き付けられている。

アジア市民大学はこうした状況を理解し、今後、出版物の刊行、シンポジウムの開催、国内外の研究機関との交流などを進め、NGO活動としての実を大きく挙げていきたい。

### ● プロフィール ●

じつ・きよたか 東京大学大学院理学系研究科博士課程地理学専門課程修了。学術博士。北海道大・富山大・奈良大・帝塚山大で通算39年間の教員。奈良大学名誉教授。専門は人文地理学・都市計画学・世界地誌。「大学テキスト人文地理学」「都市計画へのアプローチ」他著書多数。2019年よりJAFSアジア市民大学学長、20年よりJAFS理事。

**JAFS 会員綱領**

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
- 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。
- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
- 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
- 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。

以上

# 一つ屋根に家族17人 集団感染恐れる日々

世界のコロナ感染は、未だ収束の目途が立ちません。最初にデルタ株が発生したインドでの感染爆発は落ち着いてきましたが、フィリピン、マレーシア、タイなど東南アジアに広がってきています。日本も渦中にありますが、アジア各国からは、貧しさゆえの苦しみや、アジアの国ならではの取り組みについて、さらにレポートが寄せられました。

## 特集 新型コロナ禍の中で⑥

### どうやって食べよう 魚捕りも禁止され：

●ネパール 7月10日

レシナ・バジュラチャルヤII AFS  
ネパール

首都カトマンズの南西175km、インド国境に近いあるカワソティ市ゴイリ地区。そこに川で魚捕りを生業としているフル・マヤ・ムサハルさん一家が生活しています。今、彼女を悩ませているのは、家族17人がこんな小さな家で生活していること。万が一、誰かがコロナウイルスに感染した場合、全員に伝染することは間違いがありません。

しかし、それよりさらに不安なのは、危機的な家計状況の下で食料をどうやって確保するかです。日々の食事を家族に食べさせることができるか、今日は食事の準備ができるか、幼い孫6人はお腹が空いたと泣き叫ばないかと、気が気ではありません。

川に入って魚を捕ることが、コロナ感染対策として禁止されているので、魚を食べることもできません。生業が禁止され、コロナの感染が広



フル・マヤ・ムサハルさん（右端）と家族。後ろの小さな家に17人が密集して暮らしている＝ネパール、カワソティ市ゴイリ地区



感染対策で移動が制限された村に支援金を届ける  
＝カンボジア、タケオ州トレアン郡タマダ村

がる直前から、経済的に苦しくなり始めました。息子たちは慣れない工事現場に働きに行き、嫁たちも家事手伝いとして働きに行つて、何とか食いつないできましたが、感染が拡大して、それもすべて禁止になりました。

フル・マヤさんたちは、ダリット（カースト外の不可触民）コミュニティからこの地に移り住んできたため、政府の支援を受けられません。NGOや地域の人たちからの配給にすぎないのです。でも、それもいつ来るか、保証はありません。畑もない彼女たちは、このコロナ禍をどのように暮

らしていけばよいのでしょうか。

「私は自分自身をこんなに無力に感じたことは、これまでありません。貧しく教養もない私たちは、労働するこ

としかできません。どうこの日々を乗り越えればよいのでしょうか」。フル・マヤさんは、空になった米びつを抱え訴えかけました。

ネパールでは、人々がこのような生活苦にあえぐ地域に長雨が続き、各所で洪水や土砂崩れなどの被害が、コロナ禍とともに頻発しています。このような状況が2年続いて、地域崩壊の危険性が大きく膨らんでいます。

## 仕事失った家族に支援金 スマホない子に補習授業

●カンボジア 8月2日

フィン・コーンIIクメールアジア友の会（KAFS）

今年初め、カンボジアのコロナ感染者は全国で500人ほどに抑えられていました。しかし、2月にプノンペンでクラスターが発生し、状況が一変。

感染者が農村にも広がりました。コロナによって多くの企業が倒産し、多くの人々が失業しています。

KAFSでは、感染が少し収まったときに活動地域の村々を回り、話を聞きました。

ノウンさん（39歳、8人家族、タケ

オ州トレアン郡ノアム地区トラベアンクノール村）「子ども6人のうち3人が学校に通っていましたが、感染で休校になるため通えませんが、自分が家族でお金を稼げる唯一の人です。今は仕事に行けないので、収入が止まってしまい、子どもたちをどうやって養うか、大問題に直面しています」

スレイティアさん（23歳、5人家族、トラベアン村）「夫は家族を養うために遠いココン州に働きに出ています。私は母と一緒に小さな田畑で野菜を作っています。わずかな収穫しかありません。日本から村に井戸を贈っていたとき、水を買わなくてもよくなったので本当に助かっています」

ノールサヴァット君（14歳・8年生、家族は両親と弟妹4人、プレイバ

エイ村）「父は市場で働いています。今は仕事がありません。コロナで学校は閉鎖され、オンライン授業が行われていますが、家にスマートフォンがないため、受けられません。今は家で牛の世話や農作業などを手伝っています。早く学校で勉強したいです」

話を聞いた結果、村の生活では次のような問題がありました。

- \* 衛生的な水での手洗いなど、安全な水の必要性が高まってきている。
  - \* 仕事がなくして現金収入が得られず、生活がさらに厳しくなっている。
  - \* 学校が休校になると、スマートフォンをもっていない家庭ではオンライン授業を受けることができない。
- KAFSでは今まで行ってきた安全

な飲料水の供給（井戸建設）と教育支援（里子）にさらに力を入れるとともに、コロナのために村で最も困窮する人々の支援もすることになりました。仕事を失い収入のなくなった家族に支援金を渡しました。また、感染を予防す

# 伝統のハーブ使って ピンチの医療助ける

●タイ 8月16日

シリニー・シリフォンファンII TA  
FS代表

タイの上院議員でTAFSやAFSのメンバーとして10年以上にわたって活動しているアナサック・コンマライさんは、歯科医であり、総合病院の院長でもあります。コロナ治療にあたって地方の転用病院の手配を担当し、公立病院の混雑を減らすため、伝統的なタイ医学の方法を取り入れています。タイのコロナは、デルタ株が入ってから悲惨な状態にあります。新規感染者はここ数カ月、毎日数万人ずつ増えています。病院のスペース、薬、設備のすべてが不足しています。政府は、患者の増加を防ぐためにロックダウンを発表しました。医療従事者、公衆衛生労働者、ボランティアがコロナに感

るために、衛生教育とともにマスクや消毒用アルコールを贈る活動も始めました。オンラインで授業を受けられない子どもたちのために、少人数の補習を行い、学校が始まっても勉強に困らないようにサポートしています。

染し、予防接種の遅れが多くの大切な命を奪いました。

バンコクで爆発的な感染が起きている原因の一つに、地方からバンコ

クにきている労働者の首都建設キャンプとスラム街があります。彼らは毎日、疲れ果て、栄養も十分に取れず、限られたスペースに大勢が一緒に暮らしています。ぎりぎりの生活で、病院にも行けません。

バンコクでは病床数が確保できない今、まだ治療の可能性がある州立病院など地方の病院へ患者を移送し、家族からのケアとサポートを受ける取り組みもこの緊急事態に対する解決策の一つとみなされています。バンコクや他州のホテル、リゾート施設などの宿泊施設は、バンコクから移住した患者を治療するための滞在施設として病院に転用し、密な生活条件を減らします。入院もできず、治療も受けられない

人々の症状を緩和するためにコンマライさんは、伝統的なタイ医学を使いました。現代医療を待つ間の代替です。アンドログラフィス・パニキュラータ（キツネノマゴ科の植物の葉）、シヨウガ、ガラシ（シヨウガ科の植物の地下茎）、レモングラス、カフェライムリーフ（こぶみかんの葉）などの薬効あるハーブは、風邪薬として長年使われており、免疫を高め炎症を抑える作用があります。ハーブ療法により、患者が自分の体をリハビリすることを可能にします。また、感染していない人々も、生活の中でハーブを活用し体調を整えることで、病状の進行を遅くできるかもしれません。



①インタビューに答えるアナサック・コンマライ医師 ②タイの伝統的なハーブのジュース



# 命の支援、続々と現地へ

## ●ネパール 蓄えがない 少数民族に 米・油・砂糖・塩

私は、カワソティ市ゴイリ地区で「ムサハル族の文化を守る会」のリーダーをしているマン・ラジャニ・ムサハルです。この度、JAFSの皆様からの支援により、私たちのコミュニティは救われました。日本の皆様にお礼を伝えたく、AFSネパールのスタッフにメッセージを託します。

ムサハル族は昔からネパールのタラ

ット（カースト外の不可触民）の一つとされています。私たちの地域には150世帯が生活していますが、どの家も田畑を持っておらず、米を自分たちで作ることができません。川で魚を釣ったり、田畑を持っていない家の手伝いをしたりして生活していました。

コロナ禍以前、子どもたちは学校に通い、JAFSの支援で毎日、給食を食べられました。休校となり、その機会を失いました。ロックダウンで外に働きに出ることができなくなりました。仲間たちは、蓄えがなく、日々食料がなくなっていくのにおびえて過ごすしかありませんでした。助けを求めに私のもとを訪れる人たちが絶えませんでした。しかし、私も同じ状況で、助けてあげられませんでした。

150世帯に米25kgを始め、豆、食用油、砂糖、塩などの基礎的な食料品

写真IIを配っていただき、栄養失調で入院する人を出さずに済みました。私の顔は何日もこわばっていました。一人また一人と食べ物が渡る様子を見ながら、ようやく心がほぐれ、笑みが戻った感謝を今も忘れません。飢えた人々は支援を受け、家族と食事ができる喜びに包まれました。支援してくれた皆さんに大変感謝しています。



## ●インド 失業家庭に 食事パツク 農業指導・救急車

皆さまのご支援により、インドでは8地域の提携団体によって計2164人に食料と衛生用品が配られました。そのうち2団体の活動を報告します。

### AFSサングリ

マハラシュトラ州サングリ地区では7月、障がい者やホームレス、日雇い労働者、低カースト層の人ら1000人に食料を毎日配りました。病気やコロナ禍で失業して日々の食事がまともにとれない家庭や個人に、米250kg、チャパティ45kg、レンズ豆のスープ150kg、野菜150kgの食事II写真II



をパツク詰めして届けました。同地区周辺の野菜市場でヘルパーとして働くマンガルさんと家族は、ロックダウンのため仕事がなく、1日1食をとるお金さえありませんでした。別の女性、ベラールさんは「私と子どもたちは政府から、穀物も財政支援もありません」と言っていました。

また同地区では、農家への支援もしました。コロナ禍でもより多くの利益を得られるよう、収穫を増やす方法を教え、高品質野菜を栽培できる肥料や種子を配りました。

地区のホームレスや貧困層の人々500人以上に衛生啓発をしました。衛生環境が整っていない下で過ごす彼らに、医師や青年ボランティアグループ、政府保健省の公認を得ている地域保健グループASHAとともに、自己予防できるよう講習会をしました。

### HDSI

アムラワティ県で、コロナ患者を早急に病院へ運べるよう救急車を贈りました。主に同県アチャプル地区の40村を対象とし、コロナに感染しても病院へ行く交通手段を持たない村人が使えるように運用します。

村人には今まで、長時間かけて大きな病院へ行くか、病院へ行かないかの選択肢しかありませんでした。しかし救急車によって緊急時に24時間いつでも病院へ行くようになり、安心した様子を浮かべていました。

# パンダン水道で日比の懸け橋

## レクトラさんとトゥゴンさんを悼む

JAFSがフィリピンで1990年代に建設したパンダン水道プロジェクトに現地と共に携わったアンテロ・レクトラ氏とレナート・トゥゴン氏が、コロナに感染し亡くなったとの知らせが届きました。

### ネリー・S・レクトラ

#### AFSパンダン代表

夫アンテロ・レクトラは7月4日に84歳で亡くなりました。彼は1938年1月21日に、アンティーケ州のパンダンにあるセントロノーテに生まれました。イロイロ市のフィリピン海軍研究所で海洋工学を学び、アクラン大学で教育学の学士号を取得しました。彼は2期にわたってパンダン町長を務め、その後1期、副町長と地方議会のメンバーを務めました。

彼が初めて取り組んだ最大のプロジェクトの一つが、クリーン・アンド・グリーンプロジェクトです。私たちは、パンダンがフィリピンで最も汚い町の一つであると書かれた新聞記事を見つけて大きなショックを受け、地元の人々に協力をお願いし、町の中心部にある記念像の塗り替えから始めました。町をきれいにするため、ボランテ



アンテロ・レクトラさん



レナート・トゥゴンさん

見つけて大きなショックを受け、地元の人々に協力をお願いし、町の中心部にある記念像の塗り替えから始めました。町をきれいにするため、ボランテ

ジェクトは94年4月に始まり、日本とフィリピンの多くの方々の協力により96年に完成しました。私もフィリピンの状況について話すために大阪のライ

イアの女性グループを組織しました。活動の予算は厳しいものでしたが、住民、パンダン中央学校のアンバイ夫人、パンダン警察署らが賛同し、輪が広がりました。AFSパンダンの活動は94年に正式に始まり、JAFSから、村上公彦事務局長、田中久雄 元理事長らが出席し、署名式が行われました。パンダン・パイプライン給水プロ

### サンチヨ・レイ・ゲレガニ

#### パンダン障がい者協会会長

医師であったレナート・トゥゴンさん

んはコロナに感染し、4月13日に67歳で亡くなりました。

トゥゴンさんは、貧しい漁村だったパンダンに初めて私立病院「トゥゴンメディカルクリニック」を設立した人です。はじめはトゥゴンさんと彼の妻であり看護師でもあるフェーベ夫人の2人で始められましたが、今はパンダン以外にもアンティーケ州に2カ所の診療所が作られ、永年にわたり多くの人々の命を救い、守ってきました。その功績が認められ、様々な賞も受賞されています。

水道パイプラインができるまでは、村人は塩分を含み衛生的でない井戸水を飲んでいたので、多くの人が下痢や腸チフス、腎臓病、高血圧などに悩まされてきました。その治療を行い、人々の苦しみを間近で見てきたトゥゴンさんは、パイプラインができることをとても喜んで率先して協力してくれたメンバーの一人でした。慣れない地パイプライン建設に励む日本からのワークキャンプメンバーを支えてくれたのもトゥゴンさんでした。また、トゥゴンさんはパンダンの副町長も務め、サグニアンパン（地方議会）メンバーとしても活躍され、パンダンの町をよりよくするために尽力されました。

現在のパンダンはコロナ感染の爆発的な拡大により、病院には患者があふれかえっており、入院希望者が列をなし待っています。学校は閉鎖され、一

時的な感染者の滞在場所として開放されています。

パンダンにとっても家族にとっても大切な人たちを失うのは、とてもつら

## かけがえない仲間たち

岩田 芳晴  
JAFS会員

レクトラさんのご逝去、まことに残念です。突然の別れ、ネリーさんの悲しみ、いかばかりでしょうか。

選挙に勝利した新町長のレクトラさんを役場の町長室に訪ねた折、二つの事を告げられた。「水道プロジェクトの報告を私にしにやる必要はない。今まで手伝っていた土木担当の職員を使うことを禁ずる」。選挙で公約した中央市場設備の改善を重視し水道には全く関心を示さなかった。しかし、数カ月経過し、水源に近い集落に水道が通り住民の生活が一変しているのを知ったレクトラ町長は積極的に協力するようになった。日本人ボランティアと地元住民が汗を流している工事現場に時々やって来てねぎらい、励ましてい

く悲しいことです。今は残された人々で故人の意思を継ぎ、できることから協力して、助け合っていきたいと努めています。

た。パンダン側責任区間の水道管を中央政府に働きかけ獲得したのはレクトラ町長の功績である。

レクトラさんの母親ローザさんは私を「マイ・サン（わが息子）・ヨシ」と呼び、会うごとにハグしてくれた。「アンテロよ、兄貴である私の言うことに従うべし」との軽口をたたくように、親近感が増していったように思う。熱心なクリスチャンで教師だった両親に育てられたレクトラさんは、住民の暮らしの向上を一途に考え行動する政治家であり、純情で実直そのもの人であった。ネリーさんと二人三脚でまだまだ活躍して欲しかったのに。トゥゴン先生は水道建設の同志だった。工事の日本人ボランティアは度々

高熱に冒された。持参した薬も効かず、冷水で絞ったタオルで額を冷やす看護を繰り返した。そんなとき、トゥゴン先生はバイクで駆けつけ、無料で診察・治療を下された。

私が水道プロジェクトの説明にお宅を訪れたとき、終わりまで聞かず「パンダンに水道が必要です。JAFSの支援ありがたいです」と喜ばれた。やっと水道が町の中心部に通った完成式の会場で、先生と私は万感の思いで強く手を握り合った。

診療所の待合室の壁に「ラブ・ザ・ワールド（子育て五訓）」として  
\*いつも有難うと言う親の子は、いつも有難うと言う  
\*人の悪口ばかり言う親の子は、人の悪口をよく言う  
\*まわりの人や社会を大切に思う親の子は、そのように育つ

などと先生の持論を書き貼ってあったのも忘れ難いです。  
レクトラさん、トゥゴン先生、たいへんお世話になりました。お別れ残念です。どうぞ安らかにお休み下さい。

## コロナ募金を続けています

JAFS事務局 電話：06-6444-0587  
HP: <https://jafs.or.jp>

4月から呼びかけたコロナ募金は8月までに1452件、2370万5910円が寄せられました。前号に報告した分に加えて、インドを中心に支援活動を行いましたので、ご報告いたします。皆さまの温かいご支援を

協力で、多くの命を救い、多くの人々の生活を守ることができました。心より御礼申し上げます。JAFSは今後も募金と支援活動に取り組みまいります。引き続きご支援を、お願い申し上げます。

# 井戸掘り＝私のへき地医療の原点



下甑手打診療所のスタッフたちと。前列中央が齋藤学さん  
 鹿児島県薩摩川内市下甑町



JAFSの井戸掘りワークキャンプに参加した齋藤学さん（中央に立った青い服の人）＝1997年2月、インド、カルナータカ州ミラギ村

鹿児島県の離島・下甑島（人口約2300人）の下甑手打診療所長、齋藤学さんは、医師としての日々の仕事に加えて、2014年にへき地医療に携わる医師を育てる会社「ゲネプロ(GENEPRO)」を設立、20年には著書『へき地医療をめぐる旅 私は何を見つけたのだろうか』を出版し、地域医療の輪を広げ、支援し合えるネットワークをつくる活動に取り組んでいます。齋藤さんが1987年にJAFSが催したインド井戸掘りワークキャンプに参加されていたことを知り、ワークキャンプとへき地医療との間にどんなつながりがあるのか、話を伺いました。（まとめ JAFS スタッフ 川本裕子）

## 下甑島の診療所長 齋藤学さん

私は1974年に千葉県に生まれ、幼い頃から医師を目指しました。自分の祖父母や近所の方々のために「何でも診られる、何でもできる医師」になりたいと願ってきました。「そのような総合診療医を目指すなら、救急・麻酔・集中治療の三本柱を学んだ後に地域医療に進んだらどうか」との助言を受け、「いつかは地域医療を」との思いを抱きながら、救急医療や「総合診療の最大の場」である離島医療の経験を重ねてきました。

ワークキャンプ当時は医学部3年生でした。その頃から地域医療に関心があり、新宿のホームレスの研究をしたり、国際保健や公衆衛生を学んできました。海外ボランティアをしてみたいと思い、参加できる団体をあいうえお

犬にかまれたと。ガイドブック『地球の歩き方』を開くと、インドでは狂犬病の危険性があるとのこと。とんぼ返りでまた町の医者につき添いました。手当してもらい戻ってくると、次はまた別の参加者が、トゲが刺さったと。本人は破傷風が心配とのことでしたが、「つばでもつけとけ」と診断して事なきを得ました。

井戸掘りの予定外に起こったこの出来事により、私は、へき地での医療を身をもって経験することとなりました。その後へき地医療の道へ進む動機となり、原点となっています。

私には「全ての人に同じような医療を」という思いがあります。都市部と同じような医療が難しいへき地において、それをできる限り可能にするのが地域医療・総合診療の専門医です。「全ての人」に医療を届けるには、この専門医がたくさん必要です。そこで私は、専門医を育て「地域医療の輪を広げる」活動に取り組んでいます。

同じ思いを持つ医師は、世界中にいます。毎年、世界各国で開催される国際へき地医療学会には、世界中から地域医療・総合診療の専門医が集まります。同学会でインドやネパールを訪ねたこともありましたが、途上国のへき地医療現場は過酷です。

日本ではへき地でも、CT・X線・超音波・内視鏡検査もできるなど、医療設備が整っていますが、それぞれ

## インドを体験し開眼

順リストから探していたら、アジア協会アジア友の会を見つけました。インド・カルナータカ州ビジャプル近郊のミラギ村（人口約400人）での井戸掘りワークキャンプでした。男・女7名ずつが参加し、私と同じ20歳代が中心でした。年長の参加者が同窓会を設けてくださり、その後も参加者同士の縁が続いています。私は参加していた女性と結婚しています。村には医師がおらず、たった一人の看護師が奮闘している状態でした。ある日、参加者の一人が急に発熱しました。私は持参していた医学書をひもとき、マリアアの心配もあると思いましたが、町の医者に連れて行くことになりました。私も付き添うこととなりました。辛い問題のない発熱で、すぐに帰ってくるのができました。

ところが、帰るなり、別の参加者が簡単な医療物資も十分でない途上国のへき地において、あらゆる人にできる限り医療を届けようと奮闘する医師たちの姿は、私にはスーパースターに見えます。

私自身は今後も、国内外を問わず医療格差のあるところで役立つという夢にまい進するとともに、幼い頃から医師を目指したもう一つの原点である、出身地千葉での地域医療に貢献したいと考えています。

### ● × ●

- ・下甑手打診療所には現在、外科、内科、小児科があり、病床数19、医師2人、看護師9人、准看護師6人、事務職5人、その他7人。下甑島の地域医療の拠点となっている。

- ・「ゲネプロ」についての詳しい情報と問い合わせ先は、同社のホームページ <https://genepro.org/> に掲載。

- ・「へき地医療をめぐる旅 私は何を見つけたのだろうか」は三輪書店刊。四六判194頁、定価3080円（消費税込み）、ISBN978-4-89590-692-0。
- ・2000年から小学館の雑誌に連載された漫画「D.C.「ト」診療所」（山田貴敏作）は、下甑手打診療所の前所長を30年間務めた瀬戸上健二郎医師がモデルになっている。特別篇を含む26巻が小学館から単行本化され、03年にはフジテレビ系列でドラマ化された。東京の大病院の医師が離島である古志木島の診療所に赴任。当初は歓迎されなかったが、多くの患者を治療し、人柄により島民の信頼を得ていく話だ。

## 目指すは国内外「全ての人に同じように」

# もっと良い医療を！ インドの村々へ！



## 「いつでも安心」めざして クラウドファンディング

目標130万円

### ムスカ村のサテライト病院

インド中西部のマハラシトラ州ガッチャオリ県ダンノラ地区ムスカ村には医療施設がなく、人々は45kmも離れた地域医療センターまで行かなければなりません。そこに住民らが協力して2017年につくったのがサティ (SATI) 病院です。もっと充実した医療を多くの人がいつでも安心して受けられるようにするため、JAFSは130万円を目標額に、多くの皆さまに資金協力を呼びかけるクラウドファンディングに取り組んでいます。

病院と言っても現在は、崩れそうな古い家に看板を掲げてトタン屋根を載せた粗末な建物です。写真上右。医療器具も十分にそろっていません。常駐医師はおらず、患者は月4回の限られた日時にしか診療を受けることができません。同上左。

ムスカ村は人口1200人余り、約300世帯。カースト制度の枠外最下位に置かれた。なチエックを行い、自分自身の健康状態に気づいてもらうこと、身近にできることから始めました。そして多くの支援者を集め、サティ病院を設立しました。今ではムスカ村の住民だけでなく、周辺15村の人々が診察を受けにきます。日本からもJAFS第1エリアが協力し、活動をとくに進めてきました。

医療器具の不足に加えて、長引くコロナ禍で、従来は対応できていた診療までもができなくなっています。住民の衛生に関する知識も不足しており、正しい知識や情報を得る機会が不足しています。

集まった資金は、医師・看護師の人員費や医療器具・用品の購入、衛生啓発活動などに使われます。詳しくはインターネット上で上のWEBページをご覧ください。病院の医療環境を整え、住民への衛生啓発活動を行い、住民自身が自らの健康を守る地域社会をつくるために、ぜひ皆さまのお力添えをお願いします。

(JAFSスタッフ 坂口優)



れてドリット (不可触民) と呼ばれる少数民族が半数を占めています。病院がなかったときは、病气やけがをすると、多くの人が命を落としました。また、人々は精霊信仰に頼り、祈とう師による祈とうが医療だと信じていました。1997年に住民が、診療所を建ててほしいと要望しました。しかし、ナクサライトという極左過激組織が公共施設を攻撃するため、なかなか建設できませんでした。それなら、貧しい村人たちの健康の増進を目的とし、今できることから行動しよう——と青年組合 (学校の先生や自治体の人たちから構成されている任意組合) が主体となって、健康増進プロジェクトをまず始めました。健康チェックカードや母子手帳を配り、ヘルスワーカーによる定期的

ムスカ村医療支援  
クラウドファンディング  
(10月20日まで)  
<https://www.congrant.com/project/fund/3126>



## 「コロナ禍でできること」を発表

### 10カ国参加しアジア・ユースサミット

JAFS主催の第7回アジア・ユースサミットが8月28・29両日、オンラインで開催されました。今回のテーマは「地域を良くするプロジェクトを創ろう」コロナ禍で私たちができること

「」。日本を含むアジア10カ国から高校生31名を含むスタッフら総勢96名が参加しました。全部で14のプロジェクトが集まりました。その内容を事前に動画にまとめ

て発表してもらいました。審査の結果、次の最優秀賞、優秀賞各2つ、オーディエンス賞1つの計5つが決まり、表彰されました。

▼最優秀賞 「若者たちの読書愛好クラブ」 (スリランカ)、「ズーム活用大作戦：デジタル障壁を打ち破れ」 (ネパール)

▼優秀賞 「故郷の自然を守る

## 井戸掘った地に しっかりと根付く

10・11で紹介した医師の齋藤学さんが1997年に井戸掘りワークショップを体験したインドの無医村、ミラギ村では当時、地域の人々ももちろん、必要な時に適切な医療を受けられないで困っており、ぜひ病院が欲しいと要望が上がっていました。そんな中、現地のある老婦人から病院建設用にと寄付された土地が近くのカドレワド村にあり、ワークショップから2年後の99年、ミラギ村を含む38村を対象に、JAFSの支援を受けた現地提携団体BSVIAによって、カドレワド病院が設立されました。

その後は、JAFSの支援を受けず、カドレワド村とBSVIAが管理しています。現在は週3日の診療があり、地域の人たちに大役に立っています。呼吸器系の病气やがんの患者などが多く、心電図やレントゲン

## カドレワド病院、無医村に設立から22年

検査も実施されています。病院は患者から基本診療費だけを徴収し、薬は患者が薬局で買っています。カドレワド病院は、現地の人々が自立して病院を運営できるまでになっています。

(編集スタッフ 大本和子)



カドレワド病院の病室 = 2007年、カルナータカ州カドレワド村

ために私たちにできること (ゴミ拾い) (京都暁星高校)、「Eラーニングセンター・リモートで学ぶ学生のためのデジタルアクセス」 (インド) ▼オーディエンス賞 「高齢者と若者の繋がり」 (関西学院高等部)

第7回アジア・ユースサミットの詳細は、次号でお伝えします。

# 地域格差生む道路の整備不足

## 雨期に流されては修復繰り返す

ネパール報告  
中島 彩華

ナマステ（こんにちは）。私は現在、ネパールシンドウパルチョーク郡

インドラワティ村での揚水システム設置事業に携わっていますが、ネパール

トの一つ）が住む地域を訪れたときです。土壁で囲まれた、ガスも電気も水道もない、寝るための布が1枚敷かれた暗い部屋で、大家族で住む光景を見たスタッフの一人が、「同じネパールで、このような生活を送っている人たちがいることが心苦しい」と言いました。日本では言葉にすることがないであろう言葉です。

首都カトマンズは、もしかしたら皆さんが思っている以上に発展しているかもしれません。WiFiはたいいのカフェやレストランでつながります。イタリアンや日本食、韓国料理、メキシカンなど、多国籍な料理も楽しめます。日本にもあるようなアメリカンなバーやナイトクラブだってあります。夏になると、ネパールでは絶対にNGだと思っていたタンクトップやショートパンツ姿の女性を見かけることもあります。

しかし今日でもなお、カトマンズから離れた村へ行くと、様々な問題が残っているのはなぜなのでしょう。大きな理由の一つに、インフラ特に道路の整備不足があると思います。丘陵・山岳地域など、道路が整備されていない村々へは車が入っていくことができません。カトマンズから車で行ける地域の生活は改善に向かっていて一方、支援団体が入ることすら厳しい地域では、どんな生活が取り残されていると聞きます。

私の事業地でさえ、雨期には土砂崩れで道が閉鎖され、たどり着くことが難しいことがあります。実はこの道も、雨期が終わると再整備されますが、毎年雨で流されては修復するという、何のための工事なのか分からない無駄なサイクルが続いています。

今日では、誰もが知っていて当たり前となった、より良い世界を目指す国際目標SDGs（持続可能な開発目標）は、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

ネパールではカーストや出生地により、生まれたときから差があります。それをなくすためには、今、目の前の手の届く人々を支援することはもちろん、現状を改善できない理由を考え、解決策を提案、実践できる人材を育てるなど、長期的に見た支援も必要だと感じました。

（JAFSネパール駐在員）

へ来てから、現地提携団体のAFSネパールが行っている様々な支援活動についても見てきました。ネパールでは、まだまだ生活環境、教育格差、男女差別など多くの問題が残り、災害時に限らず、様々な支援要請がAFSネパールに届きます。ネパールへ赴任してから聞いた、今でも忘れられない言葉があります。支援要請地を視察するため、現地スタッフとムサハル（低カース

政府が整備したアスファルト舗装の道が、完成2、3日後の大雨でひび割れを起こした。シンドウパルチョーク郡ポテシバ村



私はベトナム南部ホーチミン近くのコーヒー農園で生まれ育ちました。ホーチミンの短期大学で経営管理を学んだ後、不動産会社勤務を経て、コーヒーショップの経営を始めましたが、そのとき、多くの日本人客が来てくれたことで日本に大変興味を持ちました。2014年、仙台の日本語学校に入學し、卒業後は東北電子専門学校に進学し、多くの留学生とともにコンピュータやビジネスについて学びました。

るMHMGグローバル事業協同組合を経営されている毛利吉男さん（JAFS監事）との出会いがきっかけで入会。毎月開く「ぞうすいの会」でベトナムの近況やコロナ事情についてお話ししたりしています。昨年のアジアン・チャリティ・フェスティバルのパネルディスカッションでもお話ししました。

たりするケースや、契約期間が終了しても帰国できず、生活に困窮する者も多くいます。資格外活動許可を申請しアルバイトができるようにするなど対応していますが、とても大変な状況です。

い環境を整えてくれるので、とても助かっています。もちろん、明文化されていない暗黙のルールもあり、多少の苦労もりましたが、それは両国の文化の違いだと理解しています。ベトナム人は、お金の貸し借りも平気で、友達を招いてパーティするのが大好きな、とても陽気な人たちです。日本とベトナムのお互いの良さを理解し合うことが大切だと感じています。

## 日本で働く技能実習生の懸け橋に

日本人は親切で、人間関係も円滑で仕事をしやすい



ダン・ティ・ゴックさん

（ベトナム）

仙台の会社でインターンシップを経験した後、いったん帰国しましたが、ベトナムと日本の懸け橋となる仕事をしたという思いが強かったので、ベトナムから日本に人材派遣する会社に入社し、18年に西日本地区担当として大阪に赴任しました。

### コロナ禍の下で故国をPR

今はコロナ禍で減りましたが、年400〜500名の技能実習生を受け入れ、各地の人材派遣関係の協同組合を通じて、通訳など様々なサポートをしています。JAFSには、その一つであ

実習生の中には、待遇のひびきや病気などの理由で失踪する者もいます。原則として転職や退職ができないため追い込まれる場合もあり、日本語が苦手な実習生に代わって対応するのも大切な仕事です。昨年のコロナ禍以来、ベトナムからの来日が大変難しくなっています。勤務先が倒産したり閉鎖し



①京都・天龍寺で ②ベトナムから来日した技能実習生たちを出迎え。2021年1月7日、千葉・成田国際空港

特定技能制度は5年間ですが、今後、延長により長期滞在が可能になります。日本に住んで働いて日本が好きになるベトナム人が増えることが、両国の懸け橋になりたいと思っています。これからもJAFSの皆様とともに歩いていきたいと思っています。

（まとめ）  
JAFSスタッフ  
柿島裕



## 町から離れた少数部族の村に水

この村は町の中心地から遠く離れた丘陵地帯に位置し、主に少数部族や指定カーストが暮らしています。村人の識字率は他の地区と比べ低く、高い収入を得られる職業についている村人はいません。井戸ができる前、村人は遠く離れた場所まで水をくみに行っていました。今は、1日に1世帯で250ℓの水をくむことができるようになりました。村人たちは、危機に瀕し、疎外された村人に対し、親切で多大な支援をしてくださった唐招提寺様に心から感謝しています。



マハラシュトラ州アムラワティ県サローナ村  
 受益者…350人(100世帯)  
 井戸の形式…露天式(深さ約15m)

【寄贈者】唐招提寺 様

【寄贈者】唐招提寺 様

## 「お寺からの頂き物」に心から感謝

マハラシュトラ州ガッチコロリ県ファシトラ村  
 受益者…320人(170世帯)  
 井戸の形式…ポンプ式(深さ約60m)



町の中心から30km離れた少数部族の村で、町に行くための公共交通機関もない不便な地域です。村人は森の植物を採取して生計を立てる貧しい暮らしを営んでいます。井戸も夏には干上がる井戸1つがあるだけで、水の入手に苦しんでいました。贈られた井戸のおかげで夏場も水の心配をしなくてすむようになりました。この井戸の贈り主がお寺だと知り、「水は命の源であり、命も頂き物」と、心から感謝して村人たちは、贈り主の長寿と明るい未来を祈っています。

## 唐招提寺、インドに井戸を贈り続けて39年・69基

奈良市五条町にある唐招提寺は、1982年から39年間、インドへの井戸寄贈を続けてくださっています。当ページに掲載した井戸2基を合わせて計69基となりました。

始まりは1982年、当時の森本孝順長老(住職)が当会の井戸を贈る活動を新聞で知り、「これからの時代、寺も国際支援、社会貢献を積極的に進めなければならない」と任意団体「インドに井戸を贈る会」をつくったことでした。以来、唐招提寺の僧侶が代表を務め、寺の講堂に募金箱を置いて、信者らに呼びかけ寄付金を募ってきました。今後も継続してご協力ください。



JAFSの小原副会長(左)に寄贈目録を手渡す唐招提寺の西山明彦長老(右) 2020年6月19日、奈良市の唐招提寺

ご寄付には  
 税の優遇措置が  
 受けられます

## いのち 生命の水 うるおす未来

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月現在)

インド=60万円      フィリピン=33万円  
 カンボジア=28万円      スリランカ=22万円  
 ネパール=17万円 (パイプライン=25~150万円)  
 バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会  
 ・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会  
 ☎06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

## みなさんのおかげで 井戸ができた村

## 干ばつ時も水が得られる喜び 【寄贈者】株クレコス にこここ倶楽部 様

従来使っている井戸は干ばつ時には枯れることが多く、村人たちは生活の水を得るために日々大変な思いをしていました。本会の現地提携団体サルボダヤが村で調査し、村人たちと相談の上、現在の場所での井戸設置を決定。よい水脈に当たるまで掘り進め、かなり深い井戸の建設となり、また皆が使いやすいように、半湾曲の珍しい形になりました。スリランカの農村部でもコロナの感染拡大が深刻になってきていますが、安全な水が手に入るありがたさを痛感しています。



ウバ州バドゥッラ県カラヤタカンドゥラ村  
 受益者…210人(43世帯)  
 井戸の形式…露天式(深さ約20m)

【寄贈者】清風学園 様

## 夏でも干上がらない井戸で生活が向上

マハラシュトラ州ガッチコロリ県ワグブミ村  
 受益者…380人(60世帯)  
 井戸の形式…ポンプ式(深さ約60m)



少数民族の村で、村人は地域に広がる森で、モハの花、モハの種(花は果物や風邪用のシロップ、種は河川の浄化、油として使用)、テンドウの葉(貧困層の人々が使うタバコ=ビディ=を包む)、竹、そして時々蜂蜜を採集し、生計を立てています。村にあった井戸は夏季には干上がり、やむをえず利用する2km先の小さな河川水をも、ときには干上がります。今、この村の人々は、新しい井戸のおかげで夏場も水を確保できるようになり、生活が向上しました。感謝です。



国内外のさまざまなイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先

## 甲山の緑と眺望満喫。大震災の跡も訪ねる



梅雨の晴れ間の6月16日、JAFS歩く会の「道楽の集い」（代表＝JAFS会員・石原基義）が西宮市の兵庫県立甲山森林公園で行われた。ウォーキングを楽しんで一人千円の参加費をアジアの人たちを支援する「アジア夢基金」に役立てる集いは今度が2回目。8人が参加し、うっそうと茂る森の緑と大阪湾の眺望を楽しんだ。

午前10時、阪急甲陽園駅に集合。住宅街のやや急な坂を抜けて甲山森林公園へ。写真。入口のヤマモモの木から赤い実が落ちてきている。森の中を歩き始

めると、「チョットコイ、チョットコイ」という野鳥の声が聞こえる。望遠レンズ付きのカメラを持って野鳥観察に来ていた中年の男性に聞くと、「コジュケイです」と教えてくれた。

公園の中心施設は白大理石で作られた高さ9m近い「愛の像」。その前に世界各国の石で作られた彫刻を左右に並べた「彫刻の道」がある。作品は「山の伝説」（ギリシャ産）「鳥と甲冑」（イラン産）「胎像」（ポルトガル産）など国際色豊かだ。展望台からは眼下に甲子園球場や金剛山など大阪湾周辺の景色が広がっている。

一行は帰る途中

「道楽の集い」は7月29日にも万博公園で行われ、5人が参加した。6、7月の参加者計13人の参加費1万3000円はJAFSがアジアの各国と協力して取り組んでいる頼母子講のような互助基金（アジア夢基金）にあてられる。この集いは月に1度開かれる。問い合わせは石原代表（電話09011343085）へ。

（JAFS副会長 法花敏郎）

## 地震観測の歴史と鎌足の墓？を見学

7月18日正午過ぎ、夏の日差しが照りつける中、JAFS高槻主催の阿武山歴史ウォークは始まりました。大阪医科大学前を出発し、山道を少し歩くと、レトロな洋館のような建物が目えてきました。京都大学の阿武山地震観測所です。所内をボランティアの方が案内して下さいました。写真。約90年前から地震観測を続けてきた



施設です。振り子型の古風な地震観測計などが展示され、地震観測の歴史を学ぶことができました。観測所の展望台からは大阪平野を一望でき、遠くに生駒山や大阪市内の高層ビル群も確認

## ユダヤ人難民との交流の跡巡る

6月27日、JAFS地区会の高槻・なにわ西・神戸・芦屋・西宮合同のイ

できました。観測所の裏手に藤原鎌足の墓といわれる阿武山古墳があり、鎌足もここから古代のこの景色を眺めたのかなと思うと、歴史のロマンを感じました。（JAFS会員 古井紀行）

ベント「国境を越える人々 三教会と人道支援・ユダヤ共同体（神戸ジューコム）跡地を巡る」に参加しました。25名が、インドをこよなく愛する「パトラト会」（JAFSプロジェクト支援会）の巽正憲さんのガイドで、3時間余りのウォークを楽しみました。戦前、リトアニアで杉原千畝にいわゆる命のビザを発給されたユダヤ人たちは、船で敦賀に到着。当時の日本で神戸にしかなかったユダヤ教徒コミュニティに身を寄せました。最盛期で約4500人。人々は難民を自宅に宿泊させ、豊かな交流が生まれました。当時の建物で唯一残った石垣の前に解説ボードが設置されました。写真。

周辺には今も多様な宗教施設があります。パプティスト派教会、ロシア正

20210627神戸歴史ウォーク



神戸市立海外移住と文化の交



教会、インドセンター、日本で唯一のジャイナ教寺院、1935年に建設されたままの姿を残すイスラム教モスクなどを見学しました。神戸市立海外移住と文化の交流センターでは、専門研究員の解説で、1928～71年に約25万人のブラジル移民を送り出した歴史を学びました。他地

## 新会員とみんな手を合わせれば

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴って約2カ月延期されていたJAFSの新入会員歓迎会が、6月26日に大阪市西区のJAFS会議室で開催されました。写真。今回は8名の新会員に来ていただきました。

会員綱領唱和から始まり、新会員からの自己紹介、地区世話人の紹介と続きました。村上公彦事務局長から、若い頃にインドで腸チフスにかかった体験をもとに「水の大切さ」を痛感し、井戸を贈る運動としてJAFS設立へと展開してきた経緯が語られました。

さらにJAFS愛唱歌「一人の小さな手」を皆さんで歌いました。「一人の小さな手、何もできないけど、それでもみんなの手と手をあわせれば何かできる」。まさにJAFSの活動を表したような歌詞でした。いろいろな人が集まり、活動が一層活発になればと思います。

（JAFS会員 實一穂）

## 新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)  
2021年6月1日～8月31日

- 社員会員  
田中恵美／谷和弘満／山田啓輔
- 維持会員  
木村泰彦／高瀬義孝
- 賛助会員  
井坂猛／追田正一／久保井一匡／小松

## 会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)  
2021年6月1日～8月31日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、  
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

- 社員会費  
大藤麻／沖田文明／奥田順／小山田宗弘／柏木道子／金井英夫／北垣俊一／暮部恵子／金剛一智／近藤眞道／崎野哲史／佐藤正隆／佐野光彦／實清隆／清水茂實／白方誠彌／末広真樹子／高井準雄／津川美世／寺西浩章／鳥居京子／根津千枝子／福澤邦治／平瀬勢丈／福岡好嗣／藤原道子／船戸康夫／松本智／南野紀美子／宮川眞一／森梢／田啓輔／吉田郁夫／吉田幸子／吉田俊朗／吉田暢子／芳野徳洋／米田明正／渡辺治彦／渡邊瑠璃子
- 維持会費  
赤野孝一／秋山タカ子／上城戸清隆／天野澄子／荒川雄毅／板谷静夫・博子／一瀬由起子／伊藤亮三／岩田史子／岩坪小夜子／上田裕美／魚森清恵／江

- 良一
- 団体会員  
(社)ドリアンプランニング
- 法人賛助会員  
税理士法人ZNC

- 川美知子／大木洋子／大須賀不出子／大槻誠子／大山愛子／置田義男／興津謙太郎／小椋加代子／尾崎篤子／小田辺朋子／風早正夫／片山真弓／加藤洋／金子文子／川上礼子／川北初美／川崎一／川崎千足／川崎なおみ／川副竹善／岸久子／桐間郁子／日下千代子／小泉好子／小西勝人／坂上やよひ／坂本美津子／佐藤明吉／佐藤恵美子／佐藤正明／塩谷真人／四國うどん讃岐路／篠塚達朗／清水泰尚／正法地真理子／杉本牧子／鈴木浩／関谷康子／園田恭子／高橋町子／竹中有香子／巽正憲／田仲拓二／田中守／谷正一／谷野健／谷山祐子／玉木町子／丹治純子／坪倉幸弘／出野聡司／苗村登美子／中路信子／中嶋政義／中谷誠／並川昌子／西井えつ子／西井継秀／西尾恵美子／西垣光代／西村清美／西村秀明／西

- 本悦子／乗田昌司／橋本末子／濱崎佳尚／日笠修宏／日阪栄子／久富雅之／廣田恵美／深田陽一／福井えり／古本靖久／古山陽一／堀内眞弓／本庄紀子／本田伸一／前野芳子／増田愛子／松橋和子／三浦寿子／三雲孝／水野礼子／南出道子／三宅律子／向出純子／森わか子／森長敬／森本宥紹／森山涼子／山口香世子／山地和家子／横手美知代／吉田京子／吉田敬市／Ranon Vendell Gail／和田秀一／和田義次

- 賛助会費  
青木ヨシ子／天津貴志／荒木迪夫／栗野アツ子／安藤幹雄／安藤理恵／飯田稔／飯田有子／池田美奈子／板原操／市来伴子／伊藤朝信／伊藤エリサ／井上知紀／今宿有利子／植村史子／鶴飼卓／内田正宏／内野清子／晴地道俊／戎野博太郎／追田正一／大岩典代／大門吉俊／大澤淑／大島裕子／大谷透／大林昌子／大森文子／大山山利子／岡田英里子／岡部雅子／岡本眞理子／小川雄也／沖野雅一／沖本然生／小原俊之／香川八千代／榎原良／片桐弘枝／加藤紀子／加藤浩輔／金本秀紀／鎌田勝江／川合三郎／河合典子／川瀬真知／河田篤子／川本裕子／北崎忠良／木原輝子／清原浩子／際本多市／久保佑治／倉田節子／輿水飛鳥／後藤理紗／駒井隆夫／駒井隆／小松良一／小美野広行／権藤恒安／近藤十郎／紺野敏雄／斉藤修一／佐伯裕子／坂田益歌／坂手悦子／佐久間純子／佐藤小苗／佐藤雅美／佐野光彦／三本松三津江／品川壮義／篠田京子／島田和幸／清水利香／仁義修・千春／新谷百代／末澤武司／杉本明子／杉本圭次朗／瀬田敦子／大仁孝太郎／高澤美貴／高瀬規江／高瀬裕彦／高橋伊敬／高橋温子／高浜久栄／瀧川真紀／竹村亨子／立田康雄／谷口辰雄／辻本英作／坪田由紀子／寺田眞理子／寺林公子／殿本明子／富松恭

- 子／永井博記／永井三千彦／中川佳子／中山豊子／檜崎しのぶ／難波正明／西野修平／西山美菜子・千晶・敦記／能勢圭子／橋本靖夫／服部健史／服部美代子／花房逸子／銅惠理子／濱口薫翠／浜本耕／林温子／林美美子／原京／東久保勝彦／平原榮子／藤岡朋子／藤田知子／藤本夕衣／藤原明朗／藤原朗／藤原和子／藤原小春／星川範子／堀正之／堀江直／前田拓／前田美保子／榎本俊晴／真嶋克成／松江宏／松尾慶治／松崎真理／松並淳／丸山育子／水江美保／溝上富夫／三田村英宗／三津谷千恵子／宮川ヒサ／宮川真理／三宅明子／宮地文子／村井昇／村上健治／村田直司／森恵美子／森正廣／八木祐子／柳大路功／柳田芳孝／山内庸行／山尾修／山川清／山口公子／山崎美智子／山田園子／山田俊朗／山本正美／横山志津子／吉田聡子／吉田大作／吉野和康／若杉徹朗／若山治子／和田隆義

- 里親会費  
浅香眞理子／荒川奈秀子／石本三恵／一瀬由起子／上田慎子／岡部雅子／笠谷寿美／鹿島恵美／柏木道子／鎌田勝江／川崎隆二／河田篤子／川端啓之／北原祐司／倉野茂樹／後藤雅子／佐藤道代／塩谷真人／塩井裕朗／高橋恵／高山恵理子／田中和子／田中誠一／坪倉幸弘／戸塚恭子／JAFSなにな西地区会／西優子／西山美菜子・千晶・敦記／銅惠理子／林美美子／久富雅之／檜原敏之／平瀬美智子／本田伸一／宮城薫／武藤英利矢／森恵美子／山尾修／山川清／横手美知代／吉田幸子／吉田聡子／米田典子／渡部高明／渡部初美／渡部司
- 一般寄付  
青木洋介／熱田親憲／井上裕之／蛭名健仁様／加奈子／大久保洋子／沖田文明／カトリックイエズス会／金井英夫／兼松利木雄／河内俊之／柴村壽子／櫻井紘哉／佐藤正隆／實清隆／篠原勝弘／ソフトバンクつながる募金／寺西浩章／富松英二／福澤邦治／樋口雅軌／藤原正昭／眞砂哲志／宮野谷篤／村上公彦／森本榮三／山本宏昭／吉田俊朗／米田明正／ライトワークス(株)

- 団体会費  
五十鈴ケアセンター／大阪西ワイズメンズクラブ／パナソニックデバイス労働組合／(社)ドリアンプランニング
- 法人賛助会費  
税理士法人ZNC／イオングループ労働組合連合会／イオンリテールワーカーズユニオン／NTT労働組合関西総支部／(株)エムビ(助)大阪府国際交流財団／(株)カステロ(株)京進／関西電力労働組合京都地区本部(株)かんぼう／京セラ労働組合本部(株)クレコス／清教学園／ソフトキープ(株)デュアルエデュケーション／Nano Zone Japanホールディングス(株)／(有)西田興産／日東薬品工業(株)／パナソニックグループ労働組合連合会(株)ビケンテクノ(株)フラットエージェンシー(株)ユニコン／ユニチカユニオン

- 井戸指定寄付(募金箱より)  
幾谷昌彦／笠谷正博
- 井戸指定  
武本和子／八木健次
- 井戸積み立て  
岡部雅子
- 井戸一基建設支援  
ボスコ希希／南野紀美子
- インド  
○カンボジア  
イオングループ労働組合連合会／JAFS

### F S高槻

- スリランカ  
富永信明／(有)ファンシープランニング
- ネパール  
(株)クレコスにここクラブ
- バン格拉デシュ  
平山隆史
- フィリピン  
京セラ労働組合本部／西宮市立甲陵中学校

- アジア・ネットワーク奨学会費  
上野孝一／小山一雄／村上公彦
- アジア・フレンドシップ夢基金寄付  
JAFS歩く会／坂口久代／高井準雄／(社)ドリアンプランニング

- アジア・ユースサミット寄付  
アイビー歌声サロン／あすなる法律事務所／熱田親憲／熱田典子／イオングループ労働組合連合会／イオンリテールワーカーズユニオン／池田直樹／伊藤勝／伊奈徹／上野孝一／岡田光浩(株)イメージワーカー／小原純子／笠谷正博／環境技術建設(株)／(株)元商會(株)グローアップハピネス／櫻井紘哉／佐藤眞子／JAFS歌声サロン／田中壽美子／千房株式会社／長克宣／東代清隆／鳥居京子／鳥居建十／(社)ドリアンプランニング／中西豊次／西田貞之／JAFSネパールへのかけ橋／島山常夫／島山ひろみ／島山房子／福岡名津子／法花敏郎／マツララジャンマン／毛利吉男／吉田俊朗／リタワークス(株)／(株)レイル／渡部高明／渡辺治彦／渡邊宏樹・瑠璃子
- アジア・子ども支援寄付  
岩田悦子

### インド無医村医療支援

- インド・HIV子どもと家族支援会費  
苗村登美子
- コスモニケタン指定寄付  
大本和子
- スリランカ・サルボダヤ支援会費  
小澤勇／船戸康夫
- チャイルドアカデミー指定寄付  
(社)ドリアンプランニング
- ネパール地域医療支援  
吉田幸子
- ネパール・ピトゥリ支援会費  
大谷英一／大谷臣子／小川幸子／倉光和之／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸／吉川照代

- 地球幸せ募金  
小代利子
- ネパール学校建設支援寄付  
福永有花／横田美智子
- ラオス学校建設支援寄付  
高瀬稔彦
- ネパール地震被災者支援寄付  
福原智恵子
- 物品・日用品・食料品等  
鎌田直子／澤村和子／設楽宏幸／新茨木ボランティア友の会／高橋美也子／山田穂積／吉田俊朗
- 集めるキャンペーン  
新井由美／佐藤博子／匿名1件

### 東日本大震災復興支援寄付

- インド貧困対策指定寄付  
JAFSなにな西地区会
- 助成金(新型コロナウイルス変異株危機対応支援)  
(特活) ジャパン・プラットフォーム
- 補助金(サイクル・エイド事業)  
(公財) JKA
- 新型コロナウイルス緊急募金  
○アジアの子どもたち支援・国内留學生支援  
熱田典子／荒川正嗣／荒川雄毅／有本幹子／飯田有子／石田和子／伊奈徹／乾達哉／孝士／今井利子／植田延江／梅岡あい子／大木洋子／大塩節子／沖野雅一／奥村佐二郎／絹田悦子／斎藤美美子／三本松三津江／渡邊克隆／仁義修・千春／大仁孝太郎／高美時郎／瀧川真紀／田中修司／田中玲子／Aviolat Daniel／谷口倫子／東代清隆／根津千枝子／JAFSネパールへのかけ橋／長谷川雅子／畑谷幸一／濱田美恵子／平島禎子／福原智恵子／船戸尚子／前田美津代／松尾慶治／松田静雄／的場義恵／三田村英宗／三林寿子／宮古聖ヤコブ教会／森川佐和子／森田恵子／大和キリスト教会支援委員会／吉江久子／吉田幸子／Ranon Vendell Gail

## クラウドファンディング(13歳)によるご寄付のお願い

クラウドファンディングに是非ご協力いただきたく、寄付方法をご紹介します。

- 13歳のQRコードまたはURLから、クラウドファンディングページにアクセスする
- ページ下部の「寄付する」ボタンをクリック

寄付をする

- 決済方法を選択

決済方法を選択してください

クレジットカード決済



決済上限金額100万円/月

銀行振込

- 支援金額および必要事項を入力し、「同意する」にチェックする

上記の確認事項・利用規約に同意する

> 決済画面へ進む

- 決済画面へ進む(クレジットカード決済の場合)、または完了する(銀行振込の場合)
  - 決済または受付完了自動メールが届きます
- ※領収書は、決済後の発行になりますのでご了承ください。

## ●子どもの平和と生存のための童話館基金

## 困難な状況にある子どもたちと共に生きたい



長崎県長崎市中町5-21  
☎ 095-828-0718  
代表：川端 翔

また、国内でも、子どもの人権や平和を守るための活動と連携し、支援を続けています。

童話館基金とアジア協会アジア友の会の関係は、基金設立直後の2002年に始まりました。「カンボジア小学校建設支援」「ネパール母子保健衛生福祉活動支援」「フイリピンストリートチルドレン支援」の3事業で協働し、交流が続いています。

現在、本基金の主な活動は、イラクの「バスラ子ども病院」への医療費支援や、カンボジアでの生態系に配慮した農業による生計改善プロジェクト支援写真などです（カンボジアでの活動は21年3月に完了し、今後は中東での新活動に移行する予定）。

これからも、アジア地域を中心に、困難な状況にある子どもたちや女性たちへささやかでも手を差し伸べる、という設立当時の趣旨に則った活動を続けていきたいと考えています。

## 新・The 社会貢献

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

## 光触媒で穏やかな暮らしを清らかな空間から

## ●NanoZoneJapan 株式会社



名古屋市 中村区 名駅1-1-1  
JPタワー名古屋21階  
☎ 052-718-3833  
代表取締役：岸下 淳子

「ナノゾーンコート」の普及に努め、誰もが笑顔で安心して暮らすため、これからの時代にもたらされる様々な課題を解決できる企業として活動してまいります。

安全な水とは何か、安心して暮らすとはどんなものなのだろうか。ナノゾーンジャパンは水を通じて安全と安心を探求することからスタートし、日本が世界に誇る、人にも地球にも優しい環境浄化技術「光触媒」を用いた独自の「自己結合性酸化チタン分散液」を製造販売しています。

JAFSの活動に共感し、

当社の技術を、衛生的な水を確保できない地域に届ける取り組みを進めていきたいと考えています。

最近では新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、光触媒を利用した抗ウイルス技術が注目され、住宅をはじめ、不特定多数が利用する場所の衛生対策として広く利用されています。

今後も当社は「ナノゾーンコート」「ナノゾーンコート」の普及に努め、誰もが笑顔で安心して暮らすため、これからの時代にもたらされる様々な課題を解決できる企業として活動してまいります。

## ●環境コラム

## ●風をつかまえる

「風をつかまえた少年」という映画を観ました。2001年、アフリカのマラウイを大干ばつが襲い、深刻な食糧危機の中、学費が払えず退学を余儀なくされた14歳の少年が、図書館で学んだ風力発電機を、廃品を利用して作り、干上がった畑に水を引いて収穫をもたらす実話に基づく映画。JAFSが支援するアジアと重ねながら、学ぶ重要さとともに、自然エネルギーのすばらしさを感じました。電力インフラがないへき地でも電気を作って使えます。CO<sub>2</sub>の排出を減らし地球温暖化を抑えるためにも、風力発電は有効です。

さて、クイズです。Q1.アジアで風力発電が多い国は？《A.2017年で中国 [世界1位]、インド [4位]》 Q2.日本に風力発電機は何基？多い地域は？《A.2014年に全国で約2000基。風が強く土地が広い北海道・東北・九州の海岸部に多い》

日本では、総発電量に占める風力発電は1%程度。安定的な風が得られる場所が少ないため導入が遅れていますが、大規模な風力発電所を目にすることも増えてきました。2年前の北海道旅行の際、稚内南方の日本海側、サロベツ原野西の景色の良い道沿いに、風力発電機が連なっていて壮観でした。28基が3km続くオトンルイ風力発電所です。私の故郷の島根半島の尾根にも新出雲風力発電所（26基）ができています。風力発電の負の側

面の一つに景観問題がありますが、私自身は、火力発電所や工場に比べ、自然エネルギーの風力発電所を、新時代の好ましい景観と感じています。地元住民には別の感覚があるかもしれませんが。

風力発電機が設置される地域が、負の影響を最も受けます。人には景観破壊や騒音、生物には特に鳥への影響など。私は基本的に風力発電に肯定的ですが、北海道で見た風力発電所があるサロベツなどの地元団体主催で「道北の風力発電の影響を考える勉強会」が3月にオンライン開催されたので、受講してみました。地元反対派集会ではなく、風力発電も認めつつ、客観的に冷静に負の側面を説明されていた印象でした。環境アセスメントが要らない小型風力発電機が自宅近くに突然作られて、騒音に悩む人の報告もありました。反面、風車への鳥の衝突死はよく言われますが、実は車や列車への衝突死の方が多いというのは新たに知った事実でした。様々な事象との相対関係の中で、功罪両面からのバランスを考えることが大事なのだと思いました。風車を鳥の飛行ルートを避けて立地させるなど対策の取りようもあります。影響や対策について地元と対話しながら発電事業が進められるよう、直接の当事者でなくても皆が関心を持ちながら、風の力を利用していからと思えます。（JAFSスタッフ 川本 裕子）

## アジアン・チャリフェス予告

恒例の、在阪アジア系市民・留学生との交流フェスティバルを今年も開催予定。  
◆日時: 2021年12月12日(日) 13:00-17:00  
◆会場: 大阪国際交流センター (大阪市天王寺区上本町) \*コロナ感染状況により、中止または内容・時間の変更もありますので、当会HPをご確認ください。

## 編集後記

本にいる外国人技能実習生は37万8千人。中には待遇の酷さなどで失踪する人もいると「活躍するアジアン」のダンさんに伺って心が痛んだ。夢を持って来日した外国人が安心して働ける国でありたいと切に思う。（裕）

コロナの変異に脅威を感じながらも、アフガニスタンで日本と共に尽力されていた仲間の方々が国外退避できずにいる状態に気がでない。人々の平和が守られることを強く願わずにはいられない日々です。（典）

コロナ禍、皆さん家でお過ごしと思えます。大変ですね。日本、とりわけアジアの貧困な人たちは本当に大変です。仕事をしたくてもないわけですから家族が大変です。少しでも皆さんの心が届きますように。（金）

の暮れた帰り道、山や川に近いわが家まで、ひと気が少なくなつた道でマスクをはずしません。「いいにおい」と声に出るほど、しっとりした自然の空気を感じて心穏やかになります。金木犀の季節も楽しみたいです。（川）

今夏、北アルプスの五竜岳（標高2814m）に登りました。雪渓を踏みしめ、鎖場をよじ登って山頂へ。白山フウロやゴゼンタチバナなど色とりどりの花と山頂からの雄大な景色にしばし暑さを忘れしました。（敏）

- |                   |      |                            |
|-------------------|------|----------------------------|
| A. 維持会費           | 年額1口 | 12,000円<br>(月額1,000円)      |
| B. 賛助会費           | 年額1口 | 6,000円<br>(月額600円=振込手数料含む) |
| C. ジュニア会費 (高校生まで) | 年額1口 | 1,000円                     |
| D. 団体会費           | 年額1口 | 20,000円                    |
| E. 法人賛助会費         | 年額1口 | 50,000円                    |
- 会費・寄付の振り込み先**  
郵便振込 00960-6-10835  
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011

入会のご案内  
皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定的な活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。



日雇い労働者の夫は麻薬中毒、妻は  
 お手伝いさんの職をコロナ流行で失  
 い、物乞いをして暮らす。一家の食  
 事は1日1回だという「バングラデ  
 イシユ、ダツカ

◀表紙の写真 蛇の神様に祈る祭りの日。  
 やや緩和されたといえどロックダウンの  
 中、多くの人がマスクをしてお寺に集まっ  
 ていた。8月13日、ネパール、カトマンズ  
 459ページに特集「新型コロナ禍の中で⑥」



## 募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で  
 貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581 E-mail asia@jafs.or.jp

URL: <https://jafs.or.jp> Facebook: <https://www.facebook.com/JAFS.NGO/>

2021年10月 147号 発行人：篠原勝弘 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、大本和子、柿島 裕、金井英夫

川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社



Accountability Self Check 2012



HPもご覧ください